

ホームステイを通じた国際交流に関する調査

—カナダ人学生とホストファミリーの関係—

A Survey on Interaction through Homestay: Host/Guest Relationships of a Group of Canadian Students in Japan

厨子 光政*
Mitsumasa Zushi*

抄録：本稿は、質問紙法により、カナダ人学生のあるグループが日本人家庭にホームステイした際の、ホスト・ゲストの交流の様子を調べ、ホームステイプログラムの成否を評価・報告するものである。このホームステイにおいては、言語的障壁はそれほど大きなものではなく、大多数のホスト、ゲストが交流を楽しみ満足することができた。その意味においては、このホームステイは成功したと言える。しかし、ホスト・ゲスト間に満足の程度における差が表れ、特に、初めてホストファミリーとなった者が、緊張と気遣いのためにより低い満足度を示した。また、ゲストが男性か女性かによって、ホストの対応の仕方が変わり、女性ゲストにより多くの気遣いをしていることが判った。さらに、ホームステイが二次目的である場合、その主催者が注意すべき点として、一次目的の交流事業のスケジュールに余裕を持たせ、ホスト・ゲストの交流時間を十分に用意しておく必要があることも、データの的に示された。

Abstract: A survey on relationships between a group of Canadian homestay students and their host families was conducted to know if the homestay was successful in terms of the accommodations, interaction, and satisfaction with the life as hosts or guests. The statistical result from the survey indicates that the language barrier was not so impenetrable as to hinder host/guest pleasurable interaction and the majority was well satisfied with the program. There were some differences, however, in the degree of satisfaction between hosts and guests: hosts, especially those with no previous host family experiences, felt more pressure or showed greater concern during the homestay and found less satisfaction than guests. Gender of the guest exerted an interesting influence on hosts' responses to the guest. Female guests enjoyed more hospitality, as was shown in the hosts' efforts to entertain them, and this effort seems to have been partly responsible for discontentment on the part of the hosts. The survey revealed that hosts and guests both wanted more time for interaction. It is suggested that the organization facilitating the homestay component should reduce time devoted to the whole primary objectives of the program for the sake of the quality of the interpersonal connections.

はじめに

1997年7月23日から7月30日にかけて「第7回日本国際青少年音楽祭」が静岡市民文化会館で開催された。これは常葉学園大学が主管した静岡県下最大規模の国際文化交流事業で、11カ国から来日した約650人の高校生・大学生を中心とした楽団員が、各楽団の普段の練習の成果を発表したり、数カ国の楽団員からなる混成楽団を

結成して国際色豊かな新曲を演奏するなどして、国際交流を図った。この間の宿舎は、常葉学園大学・短大の所有する諸施設や静岡市及びその近辺のホームステイを引き受けたボランティア家庭（多くは、子供が常葉学園系列の幼稚園、小学校、中学校、高校、大学・短大に通っている家庭）が中心であった。筆者の家庭にも、ある事情から、この音楽祭に参加したカナダの「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」のメンバーの一人がホームステイすることとなった。ホストファミリーとなるのが初めての経験でもあり、ゲスト（17才の男子青年）がくつろげる環境作り・雰囲気作りにそれなりに苦心

*静岡大学情報学部情報社会学科

*Department of Information Arts, Faculty of Information, Shizuoka University

した。その時、同じようにホストファミリーとなっているほかの家庭ではどうしているだろうか、どんな工夫をしているだろうか、ふと思ったことがこのアンケート調査のきっかけである。

アンケート調査の目的は、今回のホームステイの成否をデータ的に分析することであるが、今後も増加するこの種の国際交流の改善に繋がるよう、若干の提言も加えた。

調査項目、調査対象者、及び回答数/率

アンケート調査においては、ホストファミリーになるにあたって何を準備し何に気を使ったか、どのようなトラブルや苦勞があったかだけではなく、ホスト—ゲスト間のコミュニケーションがうまくいったかどうか、どのような話題が好まれたかなど、両者間の交流の様子を探る質問項目も用意した。しかしながら、同じ経験を共有しても当事者が異なる文化背景を持つ場合には、その経験に対する反応、感想、評価に差が生じる可能性が大きくなることは想像に難くない。(同一文化を背景とした者同士でも同じことは起こり得るが、その確率と程度は小さくなる。)しかも、質問項目の中に、「楽しく交流できましたか(質問7)」、「相手が戸惑いや驚きを感じているようでしたか(質問12)」(付表参照)のように、回答者の主観を尋ねるものがかなり多く含まれているため、ホストだけを対象に調査をしたのでは、その分析結果の信憑性が薄れる恐れがあった。ホストはすべて順調であったと自己満足していてもゲストは不満を

抱いていたり、全くその逆の場合も考えられるからである。このような欠点を多少なりとも補うために、ゲストに対しても視点を変えただけでほぼ同じ内容のアンケート調査を行った。

結果的には、質問項目によってホスト—ゲスト間の回答にかなりの差が生じ、信頼の置ける共通の数値としては提示できないものもあったが、これらは逆に、両者の意識の違いを示す興味深い結果であり、しかも、異文化交流のあり方に何らかの示唆を与える意味においては、ホスト—ゲスト間で差のある回答の方がより貴重なデータとなった。

調査対象者は、「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」のホームステイに関わったホスト98人、ゲスト103人の全員で、回答数はホスト78人(80%)、ゲスト68人(66%)であった。不満や批判的意見でもできるだけ正直に述べやすいように無記名調査とした。また、ホストが以前ホストファミリーとしてホームステイを引き受けたことがあるかどうか、ゲストの性差やホームステイ及び来日の経験の有無が、ホスト—ゲスト間の交流に何らかの影響を与えたかどうか知ることができるよう、これらを問う質問項目を用意した。しかし、ゲストの来日及びホームステイ経験の有無は、集計上の問題があったため、今回の調査には意義のある回答として活用できなかった。²⁾

なお、記述を簡潔にするために、文中ではパーセンテージの小数点以下を四捨五入した。

表1 (ホスト78人への調査)

迎えたゲスト の性別 ホスト の経験	性別	
	男	女
有	17	11
	性別不明 3	
無	12	35

表2 (ホスト68人への調査)

	ホームステイ経験		来日経験	
	有	無	有	無
男	28	1	5	24
女	26	13	2	37

1. 言葉、意志疎通（コミュニケーション）、交流

ホームステイが始まる前に、ゲストの日本語力を「ほとんど話せない」（43人）及び「あいさつ程度」（29人）と予想していたホストは合わせて72人（92%）で、一方、ゲストの16人がホストの英語力を「ほとんど話せない／“almost nil”」、34人が「あいさつ程度／“a few greetings”」と予想しており、これらを合わせると50人（74%）のゲストが英語によるコミュニケーションにはあまり期待していなかったことが判る。両者の予想通りだったとすれば、ホスト－ゲスト間のコミュニケーションはあまりうまくいかなかったという推測がなされるが、実際は、質問6及びQ. 6の結果が示すように、多くの場合「なんとか」「だいたいうまく」あるいは「非常にうまく」コミュニケーションがとれている（ホスト71人・91%、ゲスト57人・84%）。さらに、「交流を楽しめた」かどうかを尋ねた質問7及びQ. 7の結果がこれを裏付けている。「少し楽しめた」がホスト20人、ゲスト5人、「楽しめた」がホスト48人、ゲスト58人で、合わせるとホスト68人（87%）、ゲスト63人（93%）という高い数値を示している。

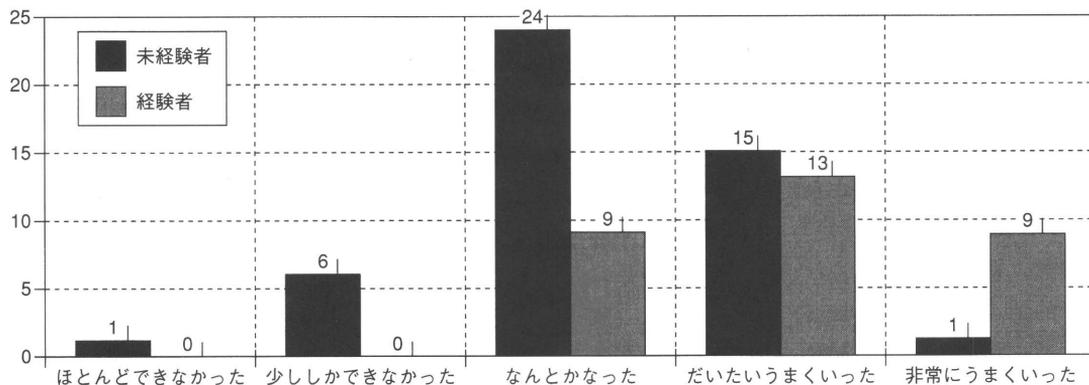
要するに、ゲストの日本語力を期待していない日本人と、ホストの英語力を否定的に予想していたカナダ人とのコミュニケーションは思いの外スムーズにいき、その結果として、両者間の交流は楽しいものとなったのである。

では、いかにしてコミュニケーションがはかられたのだろうか。使用した言葉は、ホスト78人中73人（94%）、ゲスト68人中63人（93%）が、主に英語であると回答（質問5及びQ. 5）しているが、これらのことから、ホストの英語力が相当のものであったと考えるのは楽観的過ぎるであろう。実際には英語力不足のためにかなり苦勞している様子が、自由回答（質問23）で寄せられた意見・感想から窺える。言葉による苦勞を訴えたホストは、「言葉でのコミュニケーションが難しい」「英語力の不足で大変だ

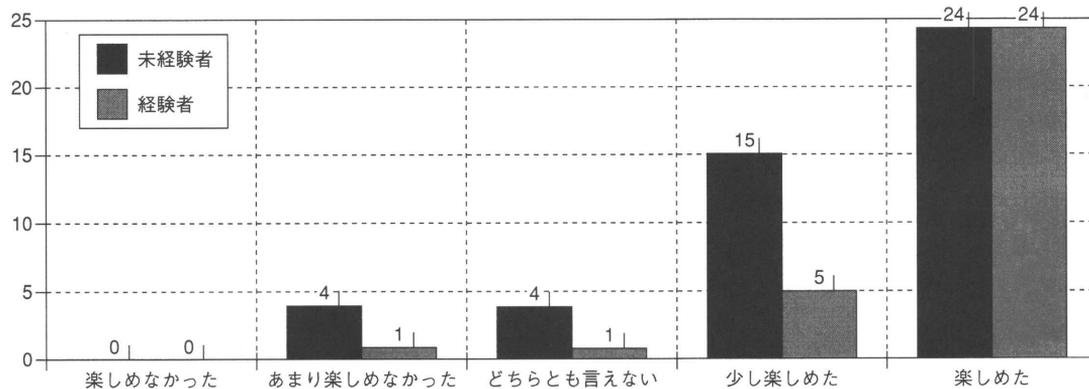
った」「言葉の違いからコミュニケーションがとれない」などを合わせると15人にも及んだ。自由回答であるためにこの数値を客観的データとして捉えることはできないが、何とか意志疎通を図ることはできたが言葉の障壁の厚さを痛感した人が潜在的には相当数いたことを示すものと考えられる。同じく自由回答に寄せられた意見・感想をもとにさらに推論を進めるならば、「語学力がなくても何とか通じる」、「（ゲストが）来る前は不安だったけれど、いざ始まればうまくいった」、「どこの国の人もみな同じ」などが示すように、言葉を越えた気持ちの触れ合いがあり、文化の違いを越えた人間同士の交流がなされたと言えるのではないだろうか。だからこそ、ホストの87%、ゲストの93%が交流を楽しめたのだ。その意味では、ホームステイを通じた国際交流の目的の一つである「身振り手振りで通じることもたくさんあり（中略）、ただ違うということを知るだけでなく、何が同じなのか、何が共通なのか、を発見していくこと」^{註2)}を、交流が楽しめなかった少数のケースがあるにせよ、ほぼ達成できたと考えてよい。

例外的少数のケースにおいては、交流を楽しめなかった第一原因として「言葉の障壁」をすべてのホストが挙げている^{註3)}が、その他の要因として、ホストとしての慣れの不足もかなり関わっていたようである。ホスト回答者78人中、今回初めてホストファミリーになった人が47人（60%）含まれており、これはボランティアでホストを引き受ける集団の中では決して少ない数字ではない。しかも、調査対象ホスト総数98人には、国際交流団体「ヒッポファミリークラブ」に所属する15人が含まれていることを考えれば、この60%がいかに高い数値であるかが判る。^{註4)}この経験のなさが、意志疎通の妨げとなり、交流の楽しみをそいでしまった一要因であることは、次のような質問6、7の回答の分布から明らかである。

質問6 相手とどの程度お互いの意志疎通をはかることができたと思いますか。



質問7 言葉がうまく通じたかどうかは別として、気軽に楽しく交流できましたか。
(食事の時、送迎の時、家族との自由時間の時、などを思い出してみてください。)



意志疎通がはかられた程度と交流を楽しんだ程度の相関関係に、ホスト—ゲスト間で興味深い差がみられる。ホストの10人(13%)が意志疎通が非常にうまくいったと考えるのに対し、ゲストの誰一人としてコミュニケーションが“almost everything perfectly”にとれたと考える人はいない。しかしながら、交流を楽しめた人の数を見ると、ホスト48人(62%)よりはるかに多いゲストの58人(85%)が交流を大いに「楽しめた／“enjoyed very much”」と考えている。これは、一つには意志疎通の程度に関してホスト側の独りよがりの判断や自己満足が多少あることを表し、もう一つには、自己満足であるにせよ意志疎通は十分はかられたと思いつつも、交流に何か不十分なものを感じるホストが少なからずいることを示しているものと判断できる。後者の原因としては、ホストとしての

気遣いと、ゲストのホームステイに対する慣れ(ホームステイ経験のある者が54人(79%))とが考えられるが、気遣いと交流に関する不満は後に詳述する。

交流の具体的内容の一端を知るために、ホームパーティを開いたかどうか、一緒にどこか観光地を訪れたかといった表面的なことではなく、どのような話題が好まれ(質問9及びQ. 9)、自分からは何を多く質問し、相手は何をよく質問したかを(質問10、11及びQ. 10、11)、ホスト、ゲストの両者に尋ねた(質問9とQ. 9は5項目、質問10、11とQ. 10、11は3項目を選ぶ複数回答)。しかし、言葉によるコミュニケーションに「かなり」、あるいは「ある程度」不便を感じる状況の中での話題は、短期間のホームステイ当事者間にありがちな話題の範囲を超えることはなかった。要するに、お互いの「国」、

「出身地の様子・特徴」, 「ライフスタイルの違い」や「食べ物」の話題が, 自己紹介の一部として, あるいはホームステイ期間をスムーズに過ごすために好まれ, 「宗教」「社会問題」「政治」「経済」などの, 相当の知識と言語表現力を必要とするような話題は敬遠されたことが判る。「学校生活」と「自分あるいは相手の家族の職業(将来の計画も含む)」についても自己紹介の話題と考えて差し支えないだろう。「スタンピード祭り」と「音楽」については, ゲストが「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」の一員であることを考えれば, 頻繁に話題に上ったとしても不思議ではない。

個人的な話題においては, プライバシーの領域に入り込まない程度の, 趣味や好みについての話が好まれるであろうと, 筆者は予想していたし, ホームステイに関するガイドブック等では, たいいてい, プライバシーに関わるような話題はあまり好ましくないとアドバイスしている。しかし, 「恋愛・恋人」については意外に多く話し合われている。ホストの13人, ゲストの15人がこの項目をよく話題にしたと回答している。しかも, 質問10「相手がよくした質問」及び質問11「あなたがよくした質問」の回答では, それぞれ5人が「恋愛・恋人」の項目を選択していることから, どちらかが一方的にこの話題を好み質問を浴びせたのではないようである。若者らしい話題の選択と考えるべきだろう。

「書物および読書／“books”」と「自分あるいは相手の性格／“personalities of your two families”」がよく話題となったとする回答に, ホスト-ゲスト間で多少の差が見られる⁽³⁵⁾が, これらから何らかの結論を導き出すことはできない。単なる言葉上での誤解かもしれないし, アンケートに回答する時の記憶違いや, 話題の分類の仕方の相違かもしれない。

2. 習慣・ライフスタイルの違いによる戸惑い・驚き

国際化が進む中で, 日本文化とそれに根ざす習慣・ライフスタイルが外国に紹介される機会が増え, 同時に西洋のライフスタイルが日本人の生活の中に入り込んで来てはいるものの, それでもやはり, 全く異なった文化の一般家庭で生活するにはかなりの戸惑いがあるようだ。習慣・ライフスタイルの違いのためにゲストが戸惑いや驚きを感じていると思った(質問12)ホストは19人(24%), 一方実際に戸惑いや驚きを感じた(Q. 12)ゲストは65人中20人(31%)⁽³⁶⁾であった。サンプル数が限られているため, 以上の差は統計上の有意差とは認められないが, 個々の戸惑い・驚きの具体例を見ると, ホスト-ゲスト間で注目に値する違いがある。上記ホスト19人の内5人が玄関での靴の脱着, 2人が入浴時に, ゲストが戸惑いや驚きを感じたと思っている。しかしながら, ゲスト自身は, 靴の脱着には戸惑いを感じておらず, 逆に20人中7人が入浴時に困惑している。

靴の脱着に関しては, 筆者自身, 今回のホームステイ期間中に限らず以前も何回か見かけたことがあり, 思い当たる節がある。よくある例を挙げれば, 玄関の三和土にびよんと飛び降りてから靴を履いたり, 靴ひもを結ぶとき, 靴を履いた足を上がり口に乗せて結んだりする。また, 上がるときの例では, まず片方の靴を脱ぎその足で上がり, その後まだ靴を脱いでない方の足をどうしたものかと手こずるのである。どうも, 靴のまま部屋に入る習慣を持つ文化出身の人には, 三和土と上がり口との段差が苦手だまごまごしているように日本人には見える。しかし, 回答が示すとおり本人は何も気にしていないのである。むしろ, 後でも述べるように, ホストがこの行動を見て戸惑ったり驚いたりしているのだ。

風呂やシャワーの使い方については, 箸の使い方のように実演による説明がしにくいとこ

ろに問題があるようだ。シャワーと蛇口との切り替えや、給湯装置の使い方は、自国内の旅行でも普段自分が使っているものと同じでないと戸惑うことがある。ましてや外国の装置ともなれば、使い方が分からなくて当然かもしれないし、湯舟と洗いの使い分けは経験のない人には理解しがたいであろう。しかも、こういったことは外国語での説明は、する方も聞く方もかなり難しい。(英語はホストにとっては外国語であり、日本語はゲストにとって外国語である。)いくら身振りをまじえても、実演ほどの効果は期待できない。したがって、風呂やシャワーに関しては、しつこいくらい丁寧に説明し、初めて風呂を使った後、困ったことはなかったかどうか念を押してみるくらいの気遣いが、ホスト側に必要となる。

質問12及びQ. 12に関連して、質問13(「ゲストの行動にホストが戸惑ったり驚いたりしたか」と、Q. 13(「ホストを驚かせたりやり方の違いを指摘されたか」)の回答を比較すると、さらに興味深いホスト—ゲスト間の差が見られる。ホストの26人(33%)が相手の行動に戸惑いや驚きを感じているのに対し、ゲストは7人(11%、無回答4人は集計の対象外)しか相手を戸惑わせたり驚かせたとは思っていない。具体例を見ても、ホストは「靴の脱着」、「入浴」、「食事」の項目以外にも、洗濯物をまとめて出す、食べ物を平気で残す、エアコン(冷房)を強くしすぎる、恋人と人前でもいちゃつく、食欲旺盛で食べる量が多いなど、回答が多岐にわたっている。一方ゲストは、相手を驚かせたと思われる項目をきちんと選択していない回答が多いので正確には判らないが、Q. 13に付け加えた“Explain what happened”の回答からは、箸の使い方を中心とする食事に関するものがほとんどである。

これらのことから、ホストが一方的に、しかも自分の予測や予期に反するという理由で、ゲストの行動に戸惑いや驚きを感じているようである。ホームステイを通して異文化出身者と交

流することの意義には、日常レベルでの違いを理屈ではなく実際に肌で感じる事が含まれているとすれば、このようなホストの反応を否定的に考える必要はない。異文化との出会いに慣れるにつれて、相手の不可解な行動を見つけることが、驚きよりも楽しみや興味になって、より素直に受け入れられるであろう。相手の行動に驚いた上記ホスト26人の中に、以前にホスト経験がある人は5人しか含まれず、21人(84%)が初めてホストファミリーを引き受けていることが、その証である。

3. 気遣い、土産

同じ内容の質問を形を変えて繰り返してはいけないというアンケート調査の基本に敢えて反して、気遣いに関する質問(質問14, 15/Q. 14, 15)を行った。それは、「ある程度気をつかった」と回答した場合でも、その気遣いをパーセンテージで表すとき、40%と答えるのと60%と答えるのでは差があるのではないかと考えたからであるが、今回は質問15及びQ. 15の回答を集計しないこととする。^{註7)}

筆者は、気遣いに関する質問を用意するとき、ホスト—ゲスト間の回答にかなりの差が生じるのではないかと予想していたが、果たして、その通りの結果を示した。「ある程度気をつかった(28人)」、「かなり気をつかった(26人)」、「非常に気をつかった(5人)」ホストを合わせると、59人(77%、1人無回答)にもなる。一方、これらに対応する回答を選んだゲストは“so-so”(15人)、“pretty much”(9人)、“a great deal”(4人)の、合わせて28人(43%)と半数に満たない。当然、その逆である「ほとんど気をつかわなかった/“almost nil”」と「あまり気をつかわなかった/“just a little”」が、ホスト77人中18人とごく少数であるのに対し、ゲストは65人中37人と多数である。

ホストの中の過半数がホスト役を初めて引き受けていることも、上記のようなホスト—ゲスト

ト間の差を増大させた要因である。ある程度以上の気を使ったホスト59人の内、ホスト未経験者は45人(76%)、一方、ホスト経験者はわずか14人(24%)である。その意味では、経験豊かなホストほど気遣いなくゲストを迎えることができ、逆に、宿を提供してもらっている立場のゲストの方が、それなりの気遣いをしていることにもなる。

次に、気を使った具体的項目(質問16及びQ.16)を分析する。ここでは、筆者が用意した17項目(その他を含む)の内、自分が気を使ったと思う3項目を選択してもらった。その結果、ホスト及びゲストともに、気遣いと言うよりむしろ心遣いと言うべきような、相手に対する優しい思いやりが多分に見受けられた。ホストが、「相手の食べ慣れた食事を出すこと」に気をつけながらも、同時に「日本の料理を食べさせてあげること」に配慮すれば、ゲストは自分の食べたい物嫌いな物をはっきりとホストに伝えながらも、出された物はできるだけ食べる(“*eating whatever food was served without leaving much*”)よう努力している。両者ともに、「だんらんの時の話題」を提供しあって、ホストは「くつろいでもらうために気楽な雰囲気を作り出すこと」に、ゲストは十分くつろいでいることをホストに知らせ(“*showing that you felt at home and were enjoying your stay with the family*”),ホストファミリーのボランティア精神に感謝してあれこれ要求することを差し控える(“*not demanding too much because you understood the kindness of your hosts in volunteering to be a host family*”)ように気を配っている。質問14及びQ.14の回答からは、前述のように、ホスト-ゲスト間に気遣いの程度の差が顕著であったが、具体的気遣いの項目においては両者間に特に注目すべき差はなく^{※8)}、互いに十分相手の立場を尊重しようとする努力、心配りが察せられる。

土産に関しては、何を渡したか、それはどのくらいの金額の物であったかをホストに尋ね、

ゲストにはもらった土産をどう思ったかを尋ねた(質問16, Q.16)。ゲストからホストに渡された土産と、それに対するホストの反応を尋ねる質問も可能であったが、この調査ではそのような質問を用意しなかった。^{※9)}ホスト78人全員が何らかの土産をゲストに渡している。予想通り、扇子、日本人形、箸、のれん、湯飲み、茶碗、浴衣、甚平等、いわゆる日本的な物が多いが、その金額を回答したのは59人で、残る19人は、「家にあった物でほぼ0円」、「3,000円プラス浴衣」、「ホームステイ中に使用した箸、茶碗、甚平等」などで正確な金額は分からなかった。59人が回答した金額は、100円から30,000円とかなりの幅があるが、平均すると6,800円(下2桁四捨五入。金額については以下同様)である。ボランティア精神に基づくホームステイは、「お土産やお金のやりとりなしを原則」^{※10)}とし、もしどうしてもと思う場合でも金額が張らない物を渡すように、ホームステイ関係のたいていのガイドブックが助言していることを考えれば、この平均金額はかなり高すぎると言わざるを得ない。このあたりに、日本人ホストは「接待が少し過剰」^{※11)}であると指摘される一端を覗かせているようである。

ホスト経験の有無別に見ると、未経験者の土産の平均金額が7,900円、経験者が5,200円でかなりの差はあるが、ここでは、ホスト経験者でさえ、平均5,200円の土産を渡していることが注目に値すると筆者は考える。ホスト役を引き受ける家庭は、部屋の間取りのみならず経済的にも余裕があるのかもしれないが、喜びや楽しい思い出を、安易に物質化しないよう自制すべきである。「予想外に高価な(“*unexpectedly expensive*”)土産」をもらったと思うゲストが17人(25%)もいたことは、反省しなければならない。一人のゲストが述べた“*If I ever needed anything they [host family] would do anything for me.*”という感想は、上記の数値を見る限りでは、親切なホストに対する感謝だけではなく、驚きの声とも聞こえてくる。

4. 満足度、不満

(注1)で説明した事情により、ホスト—ゲスト間の集計方法に少し違いが生じたが、満足度75%±10% (65%~85%)を「かなり満足」、90%以上を「非常に満足」と考えることにする。「かなり満足」と答えたホストが36人 (46%)、ゲストは9人 (14%)で、「非常に満足」はホスト30人 (38%)、ゲスト43人 (66%)であった。^{注12)}つまり、このホームステイでは84%のホストが「かなり」または「非常に」満足し、同様の満足を示しているゲストが80%いたことが判る。この結果、及び前述の「1. 言葉・意志疎通 (コミュニケーション)・交流」の分析結果を考察合わせると、言葉の障壁を感じながらも何とか意志疎通をはかり、楽しく交流できた結果、気苦労もあったけれど大半のホスト及びゲストの双方が満足したという意味で、「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」に関わるホームステイは、成功であったと言える。

しかしながら、今後も続くであろうこの種の国際的文化交流事業の支援としてのホームステイをより充実させ、より意義のあるものにするためには、不満の声にも耳を傾けなければならない。しかも、上述の「満足度」は、ホームステイ全般に対する感想であり、個別の事項に何らかの不満を感じた人は、相当数に上る。まず、質問20に「困ったことあるいは不満に思ったこと」があると答えているホストは61人 (78%)であり、その内訳を見ると、圧倒的に多いのが、「スケジュールが過密で、相手とゆっくり交流する時間がなかった」(41人)、二番目が「毎日の(ゲストの)送迎は負担が大きすぎた」(17人)である。もし、ゆったりとしたスケジュールが組まれていたならば、時間的ゆとりを持って送迎できたり、また送迎そのものの回数も減ったと考えられるので、これら2つの項目には、深い関連があると思われる。一方Q. 20 “Was there anything disappointing or unsatisfying about the homestay?”にYesと答えたゲストが回答者

64人中27人 (42%)いた。その中で一番多い不満は“the term [of homestay] was too short”(23人)、次いで“the schedule was too heavy to have enough time for interacting with the hosts”(18人)が二番目である。ホームステイ期間が短すぎるという感想と、相手との交流の時間が十分持てなかったという不満はほとんど同一のもので、余裕のあるスケジュールの中でホスト—ゲストの交流を楽しみたいという希望の表れと解釈できる。

したがって、今回のような国際的文化交流事業の中に、副次的目的として日常生活の中での異文化交流(ホームステイ)を取り入れる場合は、主催者側は、スケジュールにできるだけ余裕を持たせ、ホスト—ゲスト間の交流の時間を十分用意しておかなければならないことが判る。^{注13)}もっとも、10日足らずのホームステイの中で、どの程度交流時間が取れるかには、日程そのものの大幅な延長ができない限り、自ずと限界があるし、交流時間の増大は、かえってホストの負担の増加になる可能性も否めない。しかし、ホストは主催者と違って、ホームステイによる交流を副次的に捉えず、ゲストとの交流そのものを楽しみにしている。その目的なしには、ホストファミリーを引き受けないのかも知れない。その意味では、「日本国際青少年音楽祭」参加のために来日したゲストとも、やや立場を異にし、その結果が質問20及びQ. 20の回答に見られるホスト—ゲスト間の差(ホームステイに不満を感じた人は、ホスト78%、ゲスト42%)となっていると思われる。この差は、今後も同じようなホームステイに参加したいかどうかを尋ねた質問22及びQ. 22の回答にもそのまま表れ、ホストの積極性がゲストのそれより劣る結果となった。^{注14)}このような目的意識の違いに関しては、主催者側がホストファミリーを募る際に十分気をつけて説明を行う必要があるし、また、ホストとして応募した人も、その違いを容認する覚悟をしておかなければならない。そうすれば、質問20及び質問23に自由回

答として寄せられた不満（「日本語や日本文化を学ぼうとする意欲がない」、「彼ら（ゲスト）の目的がホームステイではない」、「（ゲストは）部屋を借りるだけという気持ち」）を、回避できるであろう。

静岡市国際交流協会（SHARE）が市民一般にホストファミリーを募集する場合でも、ゲストの来日目的は必ずしも、日本語や日本文化を学んだり日本人家庭との触れあいではないことがある。たとえば、今年度（1998年9月1日現在）すでに2度ホストファミリーを募集しているが、いずれの場合もゲストの来日目的はホームステイ以外にある。^{註15)} このようにホームステイが副次的目的の場合、ホストは、日本文化を伝えようと大上段に構えて、普段の生活とかけ離れた伝統文化などを持ち出すのではなく、日常生活の一部を共有する中で、自ずと表れ出る日常文化に自然に触れてもらうようにすべきであろう。また、主催者は、コーディネーター役として、ホストとゲスト間の認識のズレがないように十分配慮しなければならない。

質問20においても、ホスト経験の有無による差が見られた。「予想以上に、普段の生活のペースが狂ってしまった」と回答した人が10人、「相手が本当に満足しているかどうか分からず、自分だけがから回りしていた」が16人であるが、その中でホスト経験を有する人は、それぞれ2人しか含まれていない。普段通りの生活を崩さず無理のない形でホストファミリーをつとめるには、実践を重ねて慣れるのが一番の近道であることを示している。そうであれば、この差を根拠に、必要以上に気を使わない方法を教示してもしかたがない。むしろ、初めての人には、このような気苦労や緊張感こそがホームステイならではの楽しみでもあると、楽観的に構えるよう助言する方がよいであろう。

回答数は少ないが、聞き逃してはならない不満の声がある。今回のホームステイに何らかの不満（“anything disappointing or unsatisfying”）を持つゲスト27人の内8人が、ホストの過剰な接

待を指摘している。文化も言葉も異なる不案内の地に滞在するゲストへの気遣いを、過剰サービスとして不満を持たれては、ホストの立つ瀬がなくなるかもしれないが、土産の場合と同様の注意が必要である。

自由回答で寄せられた感想を少し紹介しておく。まずは、「手紙を出したのに返事がこない」、「（ホームステイ後に）ハガキ1枚こない。何か寂しい」というホストの不満である。これはホストとゲスト間の個人的な問題であり、主催者や交流事業としてのホームステイ全般に関するものではない。また、およそ100組にも及ぶホストとゲストの中には相性のよくない組が出てきても不思議ではないだろう。それでもやはり、ホームステイ後にお礼や挨拶の一言もないのはマナーに反する行為と言わざるを得ない。ホストにちょっとしたお礼のあいさつをする行為は、個人的な“‘nice thought’ or a ‘considerate gesture’”^{註16)} であろうが、そのような思いやりの行為を制度化している日本^{註17)} の家庭に滞在した場合は、相手文化への配慮という意味でも、ホストのボランティア精神に感謝する意味でも要注意である。文化的価値観の違いで片付けてしまったのは、不愉快な誤解を残すだけであるし、そもそも国際交流を行う意味がなくなる。ゲストを送り出す側である「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」の事務局の指導と、ゲスト本人の認識が十分ではなかったと言えよう。

次に、ゲストの不満として「日本人家庭に一人っきりでホームステイするのは心細かった」、「知らない国では友達が心の支えなのに、友達がどこにいるのかも知らず、取り残された気持ちだった」、「バンドのメンバーでもっと旅行ができるものと思っていた」などがある。これらの意見から、ゲストは言葉が自由に通じる気の置けない仲間同士で過ごす時間が欲しいことが判る。解決策の一つとして、ホームパーティーを2、3のホストファミリーで持ち回りで開き、それぞれのゲストを一カ所に集めることであ

る。ゲストに、自由におしゃべりできて安心して居る場を提供することが目的なので、ホームパーティーと言っても大げさなものを考える必要はないし、ホストは、自分の家以外でのホームパーティーには必ずしも参加しなくてもよいので、負担の軽減にもなる。

5. ゲストの性差に見られる特徴

男性ゲストを迎え入れたホスト回答者が29人に対し、女性ゲストのホスト回答者は46人であったので、おおよそ2:3の割合で、それぞれの回答数に差が出るのが予測される。そこで、この調査報告においては、その差が1:3以上に広がった場合、及び男性ゲストのホストの回答数が、女性ゲストのホストの回答数より極めて多くなる(3:2の割合以上)という逆転現象が生じた場合を、性差の表れた回答と考えることとする。そのような差が顕著なときは、ゲストが男性か女性かによってホストの対応が異なっていたことになる。一方、ゲスト自身の回答では、男性が29人女性は39人であったが、この人数比を大きく越えるような差が見られるケースはほとんどないし、また、それらの希なケースを基に、男女の行動や思考の違いを導き出せるような調査項目にもなっていないので、ゲストの回答は、性別によるホストの対応の違いを補完するデータとして利用するにとどめる。

質問14において「気遣いの程度」を尋ねた結果、「かなり気を使った」と回答した総数は26人(2人はゲストの性別不明)であったが、その内男性ゲストを迎えたホストは2人に対し、女性ゲストのホストが22人と極端に多い。それ故、「あまり気を使わなかった」人は、男性ゲストのホストが9人、女性ゲストのホスト3人という逆転現象が生じ、極めて明確な差となって表れている。具体的項目(質問16)を見ると、「快適に過ごせる部屋を提供すること」、「日本文化(日本の特徴)を少しでも多く紹介してあげること」、「ホストファミリーとの自由行動の

日(交流の日)の過ごし方」に気を使ったとする、男性ゲストのホスト数対女性ゲストのホスト数は、それぞれ5人対15人、1人対6人、2人対10人である。この中でも、「快適な部屋を提供」しよう気をつけたのは、ホスト経験のない人で女性ゲストを迎えた人が14人と圧倒的に多いのはある程度納得できるし、ゲストの性別による対応の差と言うよりもむしろ当然の配慮かもしれない。^{注18)}しかし、「日本文化を紹介」したり「交流の日の過ごし方」に気を使うことは、衣食住のような基本的な生活に関係する気配りではなく、少しでも楽しいホームステイを提供しようとするサービス精神の表れである。その意味で、男性ゲストが冷遇されたわけではないだろうが、女性ゲストの方がより厚遇されたと言える。その証拠が土産にも表れている。男性ゲストが渡された土産の平均金額の4,800円に対し、女性ゲストのそれは8,000円と3,000円以上の差がある。

土産の金額に関し、ホスト経験の有無によってその金額に差があることは、前にも述べた。それを含めてもう一度整理してみよう。ホスト経験があり男性ゲストを迎えたホスト、ホスト経験がなく男性ゲストを迎えたホスト、ホスト経験があり女性ゲストを迎えたホスト、ホスト経験がなく女性ゲストを迎えたホストの順に、4,400円、5,500円、6,100円、8,700円と土産の平均金額が高くなっており、どうもホスト経験の有無による差よりも、迎え入れたゲストの性別による差の方が大きいことが判る。

もう一つ、ゲストが男性か女性かによってホストの対応が異なっていることを示すデータがある。ホストファミリーとなって困ったこととして、「予想以上に、普段の生活のペースが狂ってしまった」(質問20, (e))を挙げた回答者10人の内8人が女性ゲストのホストであった。これは、ホストファミリーとなって困ったことや不満に思ったことがあると回答した女性ゲストのホスト35人の23%にあたる。さらに、その8人中7人がホスト経験のない人であったことは

見逃してはならない。質問22「もう一度ホストファミリーを引き受けますか」に、否定的あるいは消極的に回答した人は、18人（23%）と少数ではあるが、内訳は、男性ゲストのホストが4人、女性ゲストのホストが13人、ゲストの性別不明のホスト1人というように、女性ゲストのホストが群を抜いている。ここでもまた、13人中11人が初めてのホストであった。

これらのことを総合的に考え合わせると、女性のゲストを迎えた場合、特にホスト経験のない人は、サービス精神を発揮するあまり、それだけ気苦労も増えたり生活のペースが乱れたりする傾向にあり、その結果、今後ホストファミリーを引き受けることに消極的になる可能性（危険性）がある、ということになる。

このようなゲストの性別によるホストの対応の差を、ゲスト本人はどのように受け止めているのであろうか。当然、より多くの気遣いや配慮をしてもらった女性ゲストの方が、より楽しく満足していくホームステイを過ごしてしかるべきだが、残念ながら、それを数値的に表すものはない。むしろ、今回のホームステイに不満を持っているのは、女性の方が多い。Q. 20とQ. 21の回答によると、「不満」を持った男性ゲストは8人、女性ゲスト19人であった。満足度を見ても、25%、50%という比較的低い満足度を選んだ男性ゲストは0人であるのに対し、女性ゲストはそれぞれ2人、11人であった。もっとも、この不満には、Q. 20が示すとおり、「スケジュールの過密さ」や「ホームステイの期間」に対するものが多く含まれているので、そのままホストに対する不満の表れとは言えないし、今回の限られた調査結果をそのまま一般化するのは避けなければならない。しかしながら、ホストファミリーを引き受けるのが初めての場合、男性ゲストを迎え入れた方が、気遣いが少なく、その分楽しく交流できより多くの満足が得られる可能性が高い、という程度の示唆にはなっている。

まとめ

1997年7月に開催された「第7回日本国際青年音楽祭」に参加した、「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」の団員と、彼らのホストファミリーを引き受けたホストの間では、言葉の障壁はあったものの、楽しく交流でき、双方ともに満足できるホームステイであった。お互いのライフスタイルや習慣の違いによって多少の戸惑い・驚きはあったが、ゲストのほとんどは、自分の行動が日本の流儀からはずれていて、ホストを驚かせていることを知らない。その程度の戸惑いや、流儀の逸脱であれば、それほど深刻に捉える必要はなく、そのような違いを肌で実感することがホームステイの醍醐味である、とでも考えればよい。

反省が必要な点は、先ず第一に、ゲストへの高額な土産に表れているとおり、ホストの過剰な待遇である。2,000円の土産を渡し、「少し高すぎると思ったが、家にそれしかなかったのしかたなかった」と言う、あるホストの言葉を戒めにするべきであろう。特に、女性ゲストを迎えたときは、必要以上の気遣いをする傾向があった。第二点は、スケジュールのゆとりである。ゲストが国際的文化交流事業に参加するために短期間来日し、ホームステイは副次的目的である場合、せっかく来日したのだからという主催者の親切心からか、ハードスケジュールになりやすいのであろう。ホスト、ゲストともに不満の多くがスケジュールの過密さに対するものであった。日程表だけを見ると何か物足りないくらいの余裕のあるスケジュールを組み、ホスト・ゲストの交流時間を多めに用意することが望まれる。なぜなら、ボランティアのホストファミリーには、ゲストとの交流そのものが楽しみであり目的であるのだから。

(注1) ゲストに対するアンケート調査は、筆者の家庭に滞在したゲストを通し「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」の事務局に、アンケート用紙の配布と回収のみを依頼する予定であった。しかし、筆者が相手方のしかるべき代表者と直接連絡が取れなかったために、こちらの意図が十分理解されず、「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」の事務員によって集計済みの結果のみが筆者の手元に送られてきた。(回答されたアンケート用紙の所在は不明。) その結果は、男女別に集計されていたが、来日及びホームステイの経験の有無別には集計されていなかった。

(注2) 社団法人青少年育成国民会議(編集発行)『ふだん着のおつきあい:ホストファミリーのためのガイドブック<欧米編>』1994年、7-8ページ。

(注3) 質問8の回答で、交流をあまり楽しめなかったと感じた5人すべての人が、その理由として「言葉以外」には思い当たらないとしている。

(注4) 「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」のホストファミリーの募集は市町村の広報によるものではなく、「ヒッポファミリークラブ」(多言語自然習得を基本目標にホームステイなどの国際交流活動を行っている団体)の協力を得ながら常葉学園系列の学校を通じて行われたことを考えれば、当然の結果であろう。また、全国の市区及び姉妹都市提携全町村を対象に国際親善都市連盟が行った、「ホームステイ等に関する調査報告」(平成7年)で、受入家庭の固定化の問題が指摘されていることから、一般にホストファミリーを募集すると特定の経験のある家庭が応募する傾向にあることが判る。

(注5) 「読書」と回答したホストは1人、ゲストは14人であった。また、お互いの「性格」についてよく話し合ったとするホストは0人、ゲスト10人であった。

「読書」と回答したゲスト14人中13人を滞在

させたホストが、アンケートに回答しなかった確率は皆無に等しく、さらにその13人中10人が「性格」の話題を好む確率は0と言ってよいので、確率論的には偶然の結果ではない。

(注6) ゲストの回答者68人の内3人は、この質問に無回答であったため、集計の対象外とした。

(注7) 10%刻みでホストの回答を要求したのに対し、(注1)のような事情もありゲストは25%刻みで集計されていたのと、ゲストの9人がQ.15に回答していない(Q.14の無回答者は3人である)ことを考慮した。

(注8) 質問16(3)、(15)と、それらに対応するQ.16(3)、(15)には、数値的な差があるようにも見えるが、(3)については「ゲストの不満がないよう十分なホストの配慮があった」と考えられるし、(15)は「ホストファミリーに溶け込もうとするゲストの努力」と「相手の努力を強いらぬホストの気遣い」と解釈できる。

(注9) ゲストは、「カルガリー・スタンピード・ショーバンド」の事務局が準備した統一の土産を持っていたため、品物と金額を尋ねることがほとんど無意味であった。

(注10) 『ふだん着のおつきあい』10ページ。

(注11) 『ふだん着のおつきあい』34ページ。

(注12) この質問(Q.21)に回答したゲストは65人であり、3人の無回答者は集計の対象外。

(注13) 今回の「音楽祭」のホームステイでは、その最終日をホスト・ゲストの交流の日と位置づけ、自由行動の時間を用意していたが、調査結果から分かるように、まだ十分ではない。

(注14) 機会があれば今後もホストファミリーを「是非引き受けたい」と回答したホストは27人(35%)に対し、「当然もう一度静岡の日本人家庭にホームステイしたい」と考えているゲストは、回答を寄せた65人中54人(83%)であった。

(注15) カンヌ市(フランス)の大学生1人が「国際企業ビジネス研修(実習)」(7.4~8.16)のために、オマハ市(アメリカ)の大学教授2名が「日本の農業及び企業経営に関する調査・

研究」(8.18~8.26)を目的に来日し、いずれもその期間ホームステイしている。

(注16), (注17) John C. Condon, *With Respect to the Japanese* (1986; rpt, Yohan Publications, INC., 1990), p.24.

(注18) エアコンのない部屋を提供せざるを得ないような場合、「暑ければ部屋のドアを開けたまま寝てもかまいませんよ」などと、女性ゲストには言えない。筆者のゲストは男性だったので、実際に上記のような助言をした。

付表1

ホームステイに関するアンケート (ホスト用)

質問1 ホストファミリーとなるのは、今回初めてですか。

- (1) はい (47) (2) いいえ (31)

質問2 ホームステイの学生は、男性でしたか女性でしたか。

- (1) 男性 (29) (2) 女性 (46)

質問3 今回、ホストファミリーを引き受けた一番強い動機を1つだけあげると何ですか。

- (1) 外国人と話をするのが好きだから (6)
 (2) 英会話の練習にならと思ったから (4)
 (3) 国際交流事業に関心があり、自分も参加したかったから (8)
 (4) 外国文化に触れてみたかったから (5)
 (5) 家族の一人が通っている学校がホストファミリーを募集していたから (22)
 (6) 以前、家族の誰かがホームステイで外国に滞在したことがあるから (13)
 (7) 将来外国でホームステイするかもしれないから (1)
 (8) 外国人の友達をつくりたいから (8)
 (9) 何となくホストファミリーになることに興味があったから (3)
 (10) その他 (5)

質問4 相手がどの程度日本語を話せると予想していましたか。

ほとんど話せない	あいさつ程度	簡単な会話程度	日常生活にはあまり困らない程度	ほぼ完璧
(43)	(29)	(4)	(0)	(1)

質問5 主に何語を使って、相手と会話しましたか。

- (1) 日本語 (3) (2) 英語 (73) (3) その他 (日本語と英語) (2)

質問6 相手とどの程度お互いの意思疎通をはかることができましたか。

ほとんどできなかった	少ししかできなかった	うまくとはいかないまでも、なんとかあった	だいたいうまくいった	非常にうまくいった
経験者 (0)	(0)	(9)	(13)	(9)
未経験者 (1)	(6)	(24)	(15)	(1)

質問7 言葉がうまく通じたかどうかは別として、気軽に楽しく交流できましたか。

(食事の時、送迎の時、家族との自由時間の時、などを思い出してみてください。)

楽しめなかった	あまり楽しめなかった	どちらとも言えない	少し楽しめた	楽しめた
経験者 (0)	(1)	(1)	(5)	(24)
未経験者 (0)	(4)	(4)	(15)	(24)

質問8 質問7で「楽しめなかった」、または「あまり楽しめなかった」を選んだ人に質問します。あまり交流を楽しめなかったのは、言葉以外の問題では、何が一番の理由だったと思いますか。一つだけ選んで下さい。(指示に反し、2人が複数回答)

- (1) 話題がなかった (1)
 (2) 緊張していた (0)
 (3) 話をする時間があまりなかった (0)
 (4) 相手があまり話し好きではないようだった (0)
 (5) 言葉の問題以外で思いつく理由はない (5)
 (6) その他 (相手に日本語や日本を学ぶ気持ちがない) (1)

質問9 相手とどのような話題について話しましたか。よく話題となった項目を5つ(その他も含む)選んで下さい。

- (1) カナダ、アルバータ及びカルガリー (地理的観点から) (46, 3, 30)
 (2) カナダ、アルバータ及びカルガリー (文化的観点から) (20, 1, 5)
 (3) スタンピード祭り (33, 3, 14)
 (4) 日本、静岡県及び自分の街 (地理的観点から) (15, 13, 1)
 (5) 日本、静岡県及び自分の街 (文化的観点から) (13, 14, 2)
 (6) カナダおよび日本のライフスタイル (40, 20, 28)
 (7) 宗教 (3, 0, 2)

- (5) 相手の習慣・ライフスタイルに合わせる事 (1, 2)
- (6) くつろいでもらうために気楽な雰囲気を作り出す事 (14, 19)
- (7) 何が足りないか (相手が何をしてほしいと望んでいるか) を聞き出す事 (6, 6)
- (8) 翌日の送迎の時間、待ち合わせの場所などのスケジュールの確認 (13, 18)
- (9) だんらんの時の話題づくり (8, 11)
- (10) 日本文化 (日本の特徴) を少しでも多く紹介すること (1, 6)
- (11) ホストファミリーとの自由行動の日 (交流の日) の過ごし方 (2, 10)
- (12) カナダ、アルバータあるいはカルガリーについて事前に調べておくこと (0, 0)
- (13) 相手に与えるおみやげを考えること (1, 0)
- (14) 相手から要求や依頼がない限りなるべく干渉しないようにすること (1, 2)
- (15) 日本語の表現を教えてあげること (0, 0)
- (16) 病気やけが・事故のないようにしてあげること (9, 11)
- (17) その他 (2, 0)

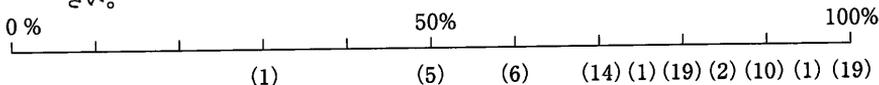
質問 17 16 で選んだ項目に関して、具体的にどのような方策を立てたか教えて下さい。
(例) (1) に関して、カナダの料理を前もって調べた。

質問 18 相手におみやげをあげましたか。「はい」の場合、差し支えなければ品物とその金額を教えてください。
(1) はい (78) (品物: 金額: 円)
(2) いいえ (0)

質問 19 今回ホストファミリーを引き受けるに当たって、何をしたらよいか、何に気を付けるべきかなど事前に調べましたか。「はい」の場合、どのようにして調べたかも教えてください。
(1) はい (37)
(a) ガイドブック等 (11)
(b) 経験者に尋ねた (19)
(c) 市や民間の国際交流協会に尋ねた (2)
(d) その他 (9)
(2) いいえ (41)

質問 20 今回ホストファミリーとなって、困ったことあるいは不満に思ったことがありましたか。「はい」の場合、具体的にはどのようなことに困ったり不満を感じたりしましたか。(複数選択可)
(1) はい (13, 6, 2 / 11, 29)
(a) ホームステイの期間が長すぎた (1, 0, 0 / 0, 2)
(b) ホームステイの期間が短すぎた (2, 1, 0 / 1, 5)
(c) 毎日の送迎は負担が大きすぎた (2, 2, 1 / 3, 9)
(d) スケジュールが過密で、相手とゆっくり交流する時間がなかった (13, 5, 2 / 7, 14)
(e) 予想以上に、普段の生活のペースが狂ってしまった (1, 1, 0 / 1, 7)
(f) 相手が本当に満足しているかどうか分からず、自分だけがから回していた (2, 0, 0 / 5, 9)
(g) 相手のわがままな要求が多かった (0, 0, 0 / 0, 0)
(h) 家庭内での習慣・ルールを説明していたにもかかわらず、守ってくれなかった (0, 0, 0 / 0, 0, 0)
(i) 最初に説明はしなかったが、もう少しホストファミリーの習慣・ルールに気づかいてもらいたかった (0, 0, 0 / 0, 0, 0)
(j) ホストファミリーに相談しないで、勝手に外出計画を立てたり、友達と遊ぶ約束をしていた (0, 0, 1 / 0, 2)
(k) その他 (3, 2, 0 / 5, 6)
(2) いいえ (4, 5, 1 / 1, 6) *質問 14 と同様の集計

質問 21 ホストファミリーとしての今回の経験に対しどの程度満足していますか。満足度をパーセントで表して下さい。



質問 22 今後もこのような機会があればもう一度ホストファミリーを引き受けますか。
(1) 是非引き受けたい (男性ゲスト: 10, 女性ゲスト: 15, 性別不明 2)
(2) 引き受けてもよい (14, 18, 0)
(3) その時の状況次第で、今は何とも言えない (4, 12, 1)
(4) できれば引き受けたくない (0, 1, 0)
(5) もう引き受けたくない (0, 0, 0)

23 今回ホストファミリーを引き受けて、どのような感想を持ちましたか。(自由回答)

付表 2

Questionnaire on homestay during "Japan International Youth Musicale"
Shizuoka 7/23--7/30, 1997 (ゲスト用)

Please check the appropriate number/box, or write down your answer to the questions.

SEX: male(29) female(39)

Q. 1 Before your homestay in Shizuoka, did you have any previous experiences of homestay?

- (1) Yes (54) (2) No (14)

Q. 2 Had you ever been to Japan before this tour with the "Stampede Showband?"

- (1) Yes (7)
(2) No (61)

Q. 3 Except for your main purpose (performing in the band), what did you hope for or want to enjoy most during your visit to Japan? (Check one box.)

- (1) homestay at Japanese homes (17)
(2) practice of Japanese language (0)
(3) travel in Japan (39)
(4) to learn something about Japanese culture(5)
(5) to make friends with Japanese people(2)
(6) other (9)

Q. 4 How good did you expect your host family members' English to be?

- almost nil (16) a few greetings (34) basic conversation (16) pretty fluent (2) excellent (0)

Q. 5 Which language did you usually use to communicate with your host family?

- Japanese (3) English (63) some other language (both) (4)

Q. 6 To what extent did you think you were able to communicate with your host family?

- hardly at all (1) just a little (10) experienced problems but did manage(16) a good deal (41) almost everything perfectly (0)

Q. 7 Irrespective of success or failure in the language communication with your host family, how much did you enjoy personal interaction with your hosts? (E.g. dinner time, travelling together, free time etc.)

- enjoyed nothing (0) didn't enjoy much (1) so-so (2) enjoyed somewhat (5) enjoyed very much (58)

Q. 8 Only for those who chose "enjoyed nothing" or "didn't enjoy much" in Q. 7: What do you think was the major cause apart from the language barrier that kept you from enjoying interaction with your hosts? (Check one.)

回答者なし

- (1) no subjects to talk about (2) hard to feel at home in an unfamiliar place
(3) little time to talk together (4) host family didn't seem to enjoy talking with me
(5) no other cause than the language barrier (6) other

Q. 9 What subjects did you most often talk about with your host family? Please check the 5 most frequent topics.

- (1) Canada, Alberta, or Calgary from the geographical point of view (34)
(2) Canada, Alberta, or Calgary from the cultural point of view (27)
(3) "Stampede" festival (30)
(4) Japan, Shizuoka prefecture, or homestay town or city from the geographical point of view (24)
(5) Japan, Shizuoka prefecture, or homestay town or city from the cultural point of view (12)
(6) Japanese and Canadian lifestyles (32)
(7) religion (2)
(8) social problems (e.g. racial, gender, criminal problems etc.) (0)
(9) politics (0)
(1 0) economy (3)
(1 1) foods (37)
(1 2) music (28)
(1 3) books (9)

- (1 4) TV and films (9)
- (1 5) school life (45)
- (1 6) study (4)
- (1 7) occupations of your family and your host family members, or your career plans (42)
- (1 8) income of your two families (0)
- (1 9) personalities of your two families (10)
- (2 0) social activities (20)
- (2 1) personal relationships, romance (15)
- (2 2) personal problems or worries (0)
- (2 3) other (4)

Q. 10 Choose three topics from the Q. 9 list that your host family asked you about most often.

Q. 11 Choose three topics from the Q. 9 list that you asked your host family about most often.

(Q. 10, 11は集計されていない)

Q. 12 Did you have any practical troubles or difficulties or feel awkward at any time owing to differences of lifestyle?

If yes, when and what happened?

- (1) Yes (20) (a) taking off and putting on shoes at entrance (0)
 - (b) taking a bath (7)
 - (c) at the dining table (8)
 - (d) using sleeping facilities (0)
 - (e) other (3) (Explain what happened:)
- (2) No (45)

Q. 13 Do you think you surprised any member of your host family by not following the correct Japanese way, or was it pointed out that you did something wrong? If yes, when and what happened?

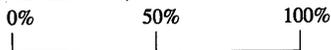
- (1) Yes (7) (a) taking off and putting on shoes at entrance (0)
 - (b) taking a bath (0)
 - (c) at the dining table (1)
 - (d) using sleeping facilities (0)
 - (e) other (3) (Explain what happened:)
- (2) No (57)

Q. 14 How much pressure did you feel that you had to "be on best behavior" for your homestay?

- (1) almost nil (14)
- (2) just a little (23)
- (3) so-so (15)
- (4) pretty much (9)
- (5) a great deal (4)

Q. 15 If you answered Q. 14 on a in the percentage scale, how much would it be?

Please check on the scale. (100% on the scale might be compared to, say, a formal job interview or meeting your fiancé's parents for the first time.)



Q16. Check 3 items in the following list that you were most concerned about. (Q. 14, 15)

- (1) making your hosts know what you liked and didn't like to eat (male:3, female:15)
- (2) eating whatever food was served without leaving much (3,15)
- (3) putting up with any inconvenience of the room you were offered (0,0)
- (4) having your hosts understand your own ways and lifestyle without irritating them (3,0)
- (5) following the lifestyle and customs of the host family (3,8)
- (6) showing that you felt at home and were enjoying your stay with the family (6,20)
- (7) not demanding too much because you understood the kindness of your hosts in volunteering to be a host family (10,17)
- (8) telling your hosts properly the schedule of the day and departure/pick up times (3,10)
- (9) offering topics to chat about when you were together at home (6,17)
- (1 0) introducing Canadian culture (3,2)
- (1 1) not troubling your hosts to make plans of the free day assigned for socializing with them (0,2)
- (1 2) learning something about Shizuoka and Japan before you came (3,0)
- (1 3) choosing gifts for your hosts (2,5)
- (1 4) telling your hosts honestly what you wanted and needed (0,9)
- (1 5) using Japanese as much as possible (7,7)

- (1 6) avoiding getting sick or being the victim of an accident or crime (9,0)
 (1 7) other (3,0)

Q. 17 What, if anything, did you do in response to each of those concerns (Q. 16)?

E.g. Obtained a guidebook to Shizuoka and read books on Japanese history in order to learn something about Shizuoka and Japan.

Q. 18 Did your hosts give you any gift? If yes, what did you think of it?

(1) Yes (67) (無回答者 1 人)

- unexpectedly expensive (17)
 reasonably good (13)
 not expensive but thoughtful (22)
 cheap but thoughtful (8)
 cheap and petty (0)
 other (7)

(2) No (0)

Q. 19 Before this tour with the "Stampede Showband," did you look into the kinds of things you should be careful about during your stay with the host family? If yes, what did you do?

- (1) Yes (48) (a) read a guidebook for homestay in Japan (29)
 (b) consulted someone that had the experience (27)
 (c) read the pamphlet prepared by the "Stampede Showband" office (43)
 (d) other (10)

(2) No (16)

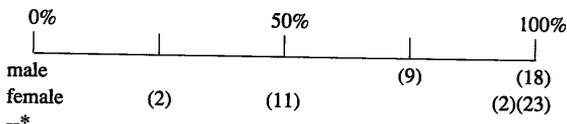
Q. 20 Was there anything disappointing or unsatisfying about the homestay? If yes, what made you disappointed or dissatisfied? You can choose more than 1.

(1) Yes (male:8, female:19)

- (a) the term was too long (4,6)
 (b) the term was too short (4,19)
 (c) the schedule was too heavy to have enough time for interacting with the hosts (6,12)
 (d) lifestyle was far more different than expected (0,1)
 (e) my hosts didn't try to understand what I wanted or needed (0,0)
 (f) my hosts were sometimes too kind and tried to offer too much (0,8)
 (g) my hosts left me alone most of the time and were not considerate enough (0,0)
 (h) the customs and rules in the family were too complicated to follow although they explained them to me (0,0)
 (i) the hosts should have explained their customs and rules in the house (0,0)
 (j) the hosts didn't leave me enough private time (0,1)
 (k) other (14,2)

(2) No (18,19)

Q. 21 How satisfied were you with the homestay? Please show on the percentage scale.



Q. 22 If you had another chance to go to Shizuoka for a similar cultural event, would you want to homestay with a Japanese family again?

- (1) yes, of course (54)
 (2) maybe yes, no reason to say no (8)
 (3) cannot answer now, that depends (4)
 (4) maybe not (0)
 (5) never (0)

Q. 23 What do you think of your homestay experience? Please state your impressions, opinion, of whatever you have in mind.